

# なごみま専科

## 産地探訪レポート

～西陣織帯匠誉田屋源兵衛を訪ねて～

### 計りて作らず

西陣織の帯匠として一線を画す「誉田屋源兵衛」。創業は1738年元文年間。現在10代目当主山本源兵衛は代々受け継がれてきた技術を守りながらも「革新」の精神を持ち合わせ、呉服業界に数々の新風を巻き起こしている。この度その誉田屋よりご招待をいただき、明治期に建設された住宅兼ギャラリーを訪ねました。

国内の著名人はもとより、ヨーロッパの有名デザイナー、芸術家たちも訪れた歴史を感じる荘厳な京町屋の座敷、蔵に展示された帯や着物は、これまで見てきた多くの作品をも圧倒する存在感。「計りて作らず、本物は残りて候」の家訓を体现する職人の技術の粋を集めた作品の数々を堪能させていただきました。



### 本物は残りて候

誉田屋源兵衛の主力商品は帯。「私が主役」とばかりに重厚感、存在感のある袋帯が並びます。共に飾られている訪問着もまた、シンプルな意匠でありながらも、強い個性を発揮している。「ゆきにはこの帯に合わせる着物がないな」と思いながら見ていると、「自社の帯に合わせる着物がない」から着物も自社で手掛けているそう。誉田屋源兵衛の帯には「金、銀、プラチナ箔」が使用されている作品が多い。これらの箔は「名塩雁皮紙」という和紙に貼り付け、糸状に裁断し、緯糸に使用されている。この和紙は大変貴重で、国宝やお城、由緒ある寺社などに使用され、重要文化財の修復用にも使われている。人間国宝の谷野氏が作る名塩雁皮紙を使用していることも、誉田屋のこだわりである。



### 創業285年

2016年、英国ヴィクトリア&アルバート博物館に、永久所蔵品として誉田屋源兵衛の作品が7点収蔵された。コシヒロコ、隈研吾とのコラボ展やユナイテッドアローズと安土桃山文化をテーマに男の着物制作、東京コレクションで発表。現在はエイベックスとも共同事業を展開している。シャネルをはじめ、ヨーロッパの有名デザイナーもお忍びで訪れるほど、ここ誉田屋源兵衛には世界の人々を魅了する作品が数多くある。

それは、単に商品として存在しているのではなく、日本の職人の魂が宿る生命そのもののように感じられました。その一点一点には、高い技術力と、困難な注文にも知恵と工夫を重ね「良い物を作る」という職人のプライドが伝わってきます。しかし、その多くの作品は、それぞれ得意な技術を持つ職人がいるからこそ完成するもので、職人がいなくなればもう二度と織れないそうです。海外の有名デザイナーから「この帯全部売ってください」と言われたときにも「非売品です」と断ったとか。それほど職人に対するリスペクトがあるのうなずけます。



西陣織の中でも最高峰の技術を生かした帯の数々を拝見できたことは貴重な体験となりました。ゆきやふらりのお客様にも是非誉田屋源兵衛の作品の一部でもご覧いただける機会を作りたいと思っています。